

地域課題研究会

大分県議会県民クラブは、県内各地へ出向いて、現地の状況を視察するとともに、地元の皆様からそれぞれの地域が抱える課題や要望を聴き取り、県政へ反映していくことを目的に、地域課題研究会を開催してきました。

温泉ハイスタンダード！

「極楽地獄」別府

2015年10月、別府市へ。「湯山地熱発電所」を訪れ、電源を利用したバイナリー発電を調査してきました。

西日本地熱発電(株)の小俣社長から、「地熱発電は太陽光発電と異なり天候に左右されないメリットがある一方、温泉蒸気に含まれる炭酸カルシウムが温泉管に付着するためメンテナンスが必要にな



る」と説明がありました。湯けむりが新たなエネルギーとして活用できれば、泉源数・湧出量とも全国トップの大分県にとって大きな財産になると認識したところです。

長野別府市長らと意見交換した後、2日目は別府市役所にてONS EN ツーリズム部観光課から、別府市の観光行政について聴き取りを行いました。

それによると「例年800万人の観光客が訪れるが、その7割が日帰り客であり、宿泊客を増加させることが一番の課題」とのことでした。

多くの外国人観光客が大分を訪れますが、無料WiFiの整備のほか、多言語化・キャッシュレス対応などの課題に取組む必要があります。

日本の心が息づくまち臼杵

2015年12月には臼杵市を訪問。中野臼杵市長らと意見交換を行い、深江地区で廃校を利用してアワビ養殖を行っている「磯端会議」を視察してきました。

廃校の校舎内に養殖用のタライ550個を並べ、コストを抑えるため食品メーカーから使用済み昆布を仕入れて餌にしているそうです。

廃校を利用した地域活性化が各地で取り組まれています。担い手となる方の熱心な思いや行動力が重要なと感じました。

続いて、大分県の代表的農産ブランドの一つ、高糖度甘藷「甘太くん」の取組みを聴きと

るため、JA大分野津事業部貯蔵倉庫を訪問。付加価値を高め、市場での競争力をつけることは、これからの農業を取り巻く環境を考えると大変なことだと思いました。

この他にも臼杵魚市場や野津町下藤地区のキリシタン墓地の発掘現場なども視察してきました。



やさしく、たくましく、ともに築く豊後大野

2018年8月には豊後大野市を訪問。まず初めに、豊後大野市役所を訪問し、川野市長から昨年5月に発生した朝地町綿田地区の大規模地すべり災害の経過と現状について説明を受けました。

発災当初は、9世帯17人が避難する状況となりましたが、現在でも2世帯4人が元の家に戻れない状況とのことでした。

豊後大野土木事務所による施工で、直径3.5m、深さ20m、40mの集水井を10本ほど掘るな



ど、地すべりを抑制する工事が続けられてきましたが、完全に動きを止めるには至っていないとのことでした。

被災エリアの一部では田植えが可能となりましたが、被災者の皆さんが一日も早く安心の生活を取り戻せるよう、工事の早期完了を願ったところでした。

地域自治を大切にしたい、住みよさ日本一のまち由布

2018年8月には由布市へ。由布市役所を訪問し、相馬市長から、2016年の熊本地震と観光動態の現状等について説明を受けました。

熊本地震後は、「九州ふっこう割」旅行商品の販売等により、観光客数は回復してきたものの、その後の九州北部豪雨等の風評被害の影響から、完全には持ち直していないとのことでした。

昨年、由布院駅前にオープン

した「由布市ツーリストインフォメーションセンター」を拠点とした九州・大分での広域観光の展開が求められます。

続いて、由布市の湯平温泉の観光協会や旅館組合等の役員を務める皆さんと意見交換。

湯平温泉の開祖は八百年前とされ、かつて全国の温泉地のなかでは「西の横綱」と言われた存在です。

各旅館にある内湯も人気の「売り」ですが、川沿いにある共同温泉も名物で知られています。地元の皆さんの一番の悩みは、その共同温泉の湯量と温度の確保とのことでした。

若手の皆さんも、五年・十年後の湯平温泉を何とかしたいと頑張っています。

湯布院とは印象の異なる「秘湯」の雰囲気と石畳の風情を活かし、「西の横綱」に返り咲く日が期待されます。

